

イエスはエルサレム神殿の中にいます。それまで、イエスはユダヤ教の宗教指導者たちから様々なシモン攻めにあつてきたのですが、それらの質問に隠された罍をみごとにかいくぐって答えられてきました。そして、彼ら宗教指導者たちは、宗教的な活動を人に見せつけるために行っているのだとおっしゃって、彼らの欺瞞を指摘したのです。そのあと、21章冒頭の場面が出てきます。金持ちが賽銭箱に献金をしているのです。

それは、この話の流れから見て、人に見せつけるために献金をしていたのでしよう。すると、ある貧しいやもめがレプトン銅貨2枚を献金するのをイエスは見ておられて、次のように言ったのです。まず最初に「確かに言っておくが」と言ったことが翻訳されていきますが、この言葉は、「真実をあなたがたに言う」というイエスの断り書きのような決まり文句なのです。この言葉の次に語られる内容は真実なのだということを発言する際に言われる決まり文句なのです。レプタ銅貨は2、300円に相当するような少額です。しかし、イエスは言われるのです。「私はあなたがたに真実を告げます。この貧しいやもめは誰よりもたくさん献金をしたのです」と告げたのです。

神の目からみたら、有り余る自分のお金の中から献金したのですが、貧しいやもめは自分の生活費に欠かせないような金額をすべてささげたのです。金持ちがした金額と比べたら確かに少額ですが、それは現在の世ではなく、次の時代に來る神の国においては、貧しいやもめのように、新しく到来する神の国を待ち望む姿勢で献金をしなければならぬというのです。

そこで、イエスに従ってきた人々は尋ねるのです。7節「先生、では、そのこと（＝新しい神の国の到来）はいつ起こるのですか。また、そのことが起こるときには、どんな徴があるのですか」と尋ねるのです。それに対して、9節にあるように戦争や暴動におびえてはならない。世の終わりはすぐには來ないからである、と言うのでした。

このことに関連して、思わされることがあります。私は動物看護大学で生命倫理を講義しているのですが、そのために動物のことについていろいろと自分でも勉強しているのですが、乳牛や肉牛がわが国においても、世界的な規模においても繁殖されていて、その家畜工場の生産によって、私たちの食卓が潤っているのです。ところが、こうした乳牛や肉牛の大量生産によって、地球温暖化が促進されているという事実はあまり知られていません。

このことに気づいたきっかけは、2年前のゼミ生2名が牛のことを卒論でやりたいと申し出てきたことからです。理由を聞くと、牛のゲップが二酸化炭素よりも濃度の濃いメタンを吐き出している事実が関心を持った理由でした。結局、コロナ下で北海道に実地調査に行くことが難しく、テーマを変えましたが、牛を悪者にするのはおか

しいと感じたことがきっかけです。

牛は反芻動物ですので、微生物の働きで消化を促進させているのでゲップを出さないわけにはいきません。そのゲップよりも大きな問題は、畜産工場で大量に生み出される牛たちの糞尿も温暖化に影響しています。また、世界的な趨勢としてこのまま肉食が進んでいくと、2030年には肉不足になり、培養肉が必要となるとの予測もあり、そういう状況の中でも、熱帯雨林を穀物生産の土地にするために開発が進み、酸素を作り出す場所が地球上で減少しているのです。国連のIPCC（気候変動に関する政府間パネル）は気候変動対策のために肉食を減らすべきだと提言しています。

映画監督の森達也さんが「いのちの食べ方」（角川文庫）で紹介していますが、牛や豚を食料の原料としている今の食生活をやめるのは至難の業だということを言っています。焼き肉を食べなくても、レトルトのカレーやシチューのルーには牛や豚のエキスが入っているし、牛や豚の皮膚や骨のコラーゲンから作られるゼラチンによって、プリンやゼリーがつくられているし、ゼラチンは医薬品や化粧品素材になっているし、建築関係の接着剤にも使われているのです。

ですから、家畜動物の生産を減らすことは簡単にできることではないのは事実です。けれども、地球温暖化は来るべき次の世代に、地球上で生活できる環境を受け渡していく義務が私たちにはあるということも突きつけています。今の私たちの食生活のスタイルが、次の世代の地球環境を破壊しているとしたら、それは新しい神の国の到来を待ち望む姿勢とはならないのではないかと思わされるのです。

確かに、私たちは自分が食べたいものをスーパーで買って食べています。それは人間に与えられた自由の一つです。けれども、自分が食べたいものの背後にどのような事態が横たわっているのかを知ったならば、それに対する行動をとらなければならぬということのは、イエスが貧しいやもめの献金の姿勢を見て語ったことに相通じるのではないかと思わされるのです。すでに、牛や豚、鶏の肉食によって起こりえる地球上の終末の徴は出ているのです。この終末の徴は示されていることを思うとき、貧しいやもめが自分の生活に欠かせないレプタ銅貨2枚を新しい神の国のためにささげたように、私たちの食生活を見直してみることが必要ではないかと思わされます。そこに私たちにとっての新しい神殿が築かれることになるんです。